

問題一

問い一 A 発祥 B 往還 C 涉猟 D 喪失 E 緻密

問い二 異民族の探査から、西洋文明への発展過程を見出せるという確信。(三〇字)

問い三 文化や文明をどう規定するかで調査対象への接し方が決まるから。(三〇字)

問い四 文化を自民族の精神性や伝統として文明に対置し称揚したドイツを除けば、一貫して文明より劣った排除の対象だと考えられている。(六〇字)

問題二

問い一

- ア 獲得するからである
- イ あるはずである
- ウ 言ってよいだろう

問い二

人間は、性質として他者の喜びに嫉妬するものだから。(二五字)

問い三

人は、他者の悲しみに共感する時、利己心が取り払われ、社会的存在としての自己を実感し人間の本性を回復する喜びを覚えるから。(六〇字)

問題三

言葉とアイデンティティの関係は、人は内在する属性に従い言葉を使うとする本質主義で説明されてきた。だが、これは状況に応じ言葉を使い分けている実態と異なるため、人の特徴は言葉で作られ、その特徴を表現し続ける中で自らの統一性を感ずるとする構築主義が登場する。この考えによれば、海外のある種の職業人の人物像は彼らの発言を同様の言葉遣いに繰り返し翻訳することで得られ、そこに生じる日本語の変化が考察対象となる。(二〇〇字)